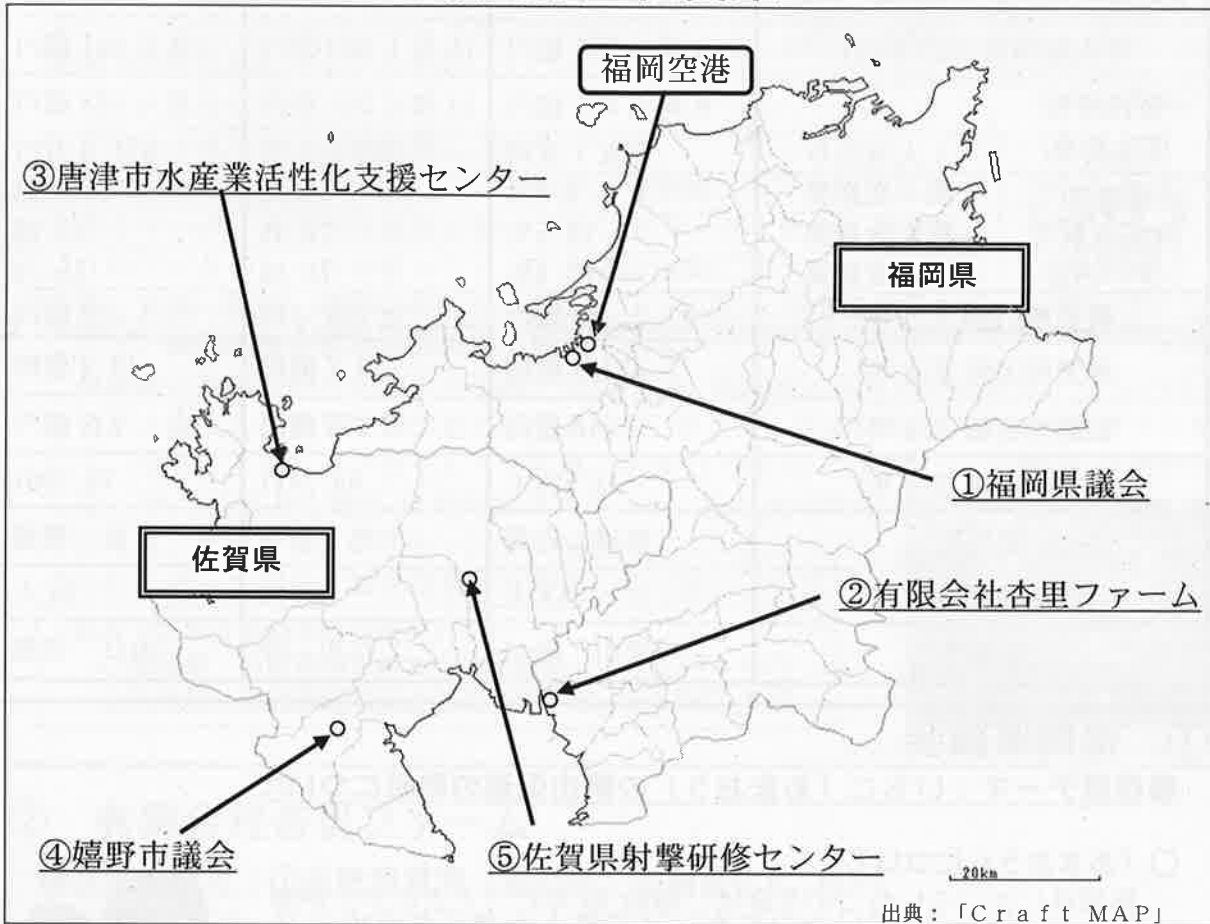


新農業戦略対策特別委員会 県外行政視察概要

平成 29 年 5 月 16 日 (火) ~ 5 月 18 日 (木)
福岡県、佐賀県



視 察 日	視 察 先・ 視 察 テ ー マ
5 月 16 日 (火)	① <u>福岡県議会 (福岡県福岡市)</u> いちご「あまおう」の輸出促進の取組について
5 月 17 日 (水)	② <u>有限会社杏里ファーム (福岡県柳川市)</u> ・ 未使用資源 (稲わら) の商品化について ・ 6 次産業化による農業ビジネスについて ・ 施設視察
	③ <u>唐津市水産業活性化支援センター (佐賀県唐津市)</u> ・ さばの完全養殖の取組について ・ 施設視察
	④ <u>嬉野市議会 (佐賀県嬉野市)</u> 「うれしの茶」の海外販路開拓に向けた取組について
5 月 18 日 (木)	⑤ <u>佐賀県射撃研修センター (佐賀県佐賀市)</u> ・ 鳥獣被害対策における狩猟者等の確保・育成に向けた射撃場の整備について ・ 施設視察

【出典：データで見る県勢 2017】

項目	新潟県	福岡県	佐賀県	
面積 (H27年)	1万2,584 km ²	4,986 km ²	2,441 km ²	
人口 (H27年)	230万4,264人	510万1,556人	83万2,832人	
普通会計歳出決算額 (H26年度)	1兆3,971億円	1兆6,110億円	4,272億円	
県内総生産 (H25年度)	8兆8,336億円	18兆1,889億円	2兆6,811億円	
県民所得 (H25年度)	6兆4,488億円	14兆4,064億円	2兆1,103億円	
1人当たり	276.7万円	283.1万円	251.3万円	
産業別 就業者割合 (H27年)	第一次産業	5.9%	2.8%	9.3%
	第二次産業	28.5%	20.4%	25.0%
	第三次産業	65.6%	76.8%	65.7%
農業産出額 (H26年)	2,448億円	2,170億円	1,230億円	
林業産出額 (H26年)	433.5億円	123.7億円	13.2億円	
漁業産出額 (H26年)	116億円	255億円	249億円	
漁業生産量 (H26年)	33,556 t	69,247t	78,290t	
議長名	早川 吉秀	中尾 正幸	石倉 秀郷	
議員定数	53人	86人	38人	
知事名	米山 隆一	小川 洋	山口 祥義	

① 福岡県議会

●視察テーマ：いちご「あまおう」の輸出促進の取組について

○「あまおう」について

福岡県におけるいちごの生産は、昭和58年に「とよのか」が導入されたことをきっかけに、産地として大きく飛躍した。その後、厳寒期にも果実が赤く色づく、おいしい、果実が大きい、収穫・パック詰めが省力できる品種を目指し、改良され、平成8年に現在の「あまおう（品種名：福岡S6号）」が誕生した。「あまおう」の名前は県民からの公募で決まり、『あ・赤い』、『ま・丸い』、『お・大きい』、『う・うまい』の頭文字と、甘いいちごの王様になるようにという願いが込められている。



いちご	福岡県		新潟県	
	全国順位		全国順位	
作付面積 (ha)	456	2位	97	19位
10a当たり収量 (kg)	3,830	3位	1,140	41位
収穫量 (t)	17,500	2位	1,110	30位
出荷量 (t)	16,500	2位	866	30位

(資料：平成25年 野菜生産出荷統計)

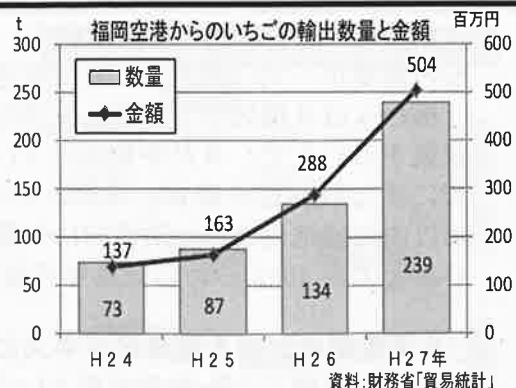
○輸出促進に向けた取組について

福岡県では、アジアに非常に近い地理的優位性と、空港・港などの充実したインフラを最大限に生かし、東アジアを中心に輸出促進の取組を展開している。平成14年度から販路開拓期とし、商談会の開催や駐在員による取引サポートなどを実施。また、輸出に積極的なJAや生産者グループを支援し、輸出に関するセミナーや輸出入業者の紹介、アドバイザーの派遣なども行っている。さらに、平成17年度からは、「農産物輸出モデル産地」と位置づけ、香港や台湾を始め、世界各地のバイヤーを招聘する等、直接商談に結びつける取組等の支援を行っている。

いちごの輸出先の 国別シェア(全国・H27年)	
香港	86.3%
台湾	9.7%
シンガポール	2.1%
タイ	1.5%
その他	0.4%

資料：財務省「貿易統計」

「あまおう」は、平成 14 年に香港へのルートを開拓し、平成 15 年に 1.4 t を輸出している。その後、台湾、シンガポール、タイ、アメリカ、ロシアと輸出先を拡大。総輸出量は順調に伸び、「あまおう」は県産農産物の輸出においても牽引役となっている。また、さらなる輸出拡大を目指し、平成 28 年度からは、米国における「あまおう」等の市場調査を開始。平成 29 年度には、米国での販売促進フェアを予定している。



○ブランド化による輸出促進について

輸出促進のために力を入れているのが、「福岡産」のブランド化。「まるふくマーク」を福岡県産品の統一ブランドマークと決め、農産物にはこのマークのシールを貼ってアジア市場の店頭にも並べている。また、香港、中国、韓国、台湾において「あまおう（甘王）」の商標登録を行うなど、商品価値を高める取組を展開している。



↑まるふくマーク

農産物の輸出先の中心である香港・台湾へは、他国産の売り込みも激化。さらには、東日本大震災の影響等で輸出量が落ち込んだ。そこで、香港はもとより台湾やタイにおいて、知事によるトップセールスを実施。平成 25 年には「あまおう」の輸出 10 周年にちなんで、「あまおう輸出 10 周年記念イベント」を台湾で開催するなど、さまざまなプロモーションを通して、ブランド力のさらなる向上を図り、販売促進・定番化に取り組んでいる。



シンガポールでの福岡フェアの様子↑

〈平成 29 年度当初予算の状況〉

○福岡県 県産農林水産物の輸出促進	65,774 千円
○新潟県 県産農産物輸出促進対策事業	15,487 千円

② 有限会社杏里ファーム

- 視察テーマ：①未使用資源（稲わら）の商品化について
②6次産業化による農業ビジネスについて
③施設視察

○概要

創業者	平成 17 年 10 月 5 日	
代表者	梶島一晴	
資本金	300 万円	
従業員数	社員 5 名、パート 4 名、季節雇用 4 名	
主な生産品目	米、麦、大豆、畜産飼料用稲わら、麦わら、園芸用麦わら、亜熱帯フルーツ（ドラゴンフルーツ、マンゴー、アセロラ、バナナ等）、とうもろこし、ジェラート、アイスキャンディー	
栽培面積	稲わら収集 250ha、麦わら収集 300ha、水稻栽培 8 ha、麦栽培 15ha、大豆栽培 6 ha、亜熱帯フルーツ 6,500 m ²	

平成 3 年、代表の梶島一晴氏が 30 歳のとき、い草生産と畳表の加工を行っていた両親が体調を崩されたことを契機に、それまで自営していた建設業を辞めて就農した。

○未使用資源（稲わら）の商品化について

建設業から参入した自分でもできることをと、平成 6 年から稲わらの収集・販売に着手。稲わらのほとんどは焼却され、焼却灰さえ利用されない未利用資源であったからこそ量は豊富にあり、畜産農家からの需要もあると見込む。水稻収穫後の稲わらを収穫し、直径約 1 m のロール状にして肥育牛の飼料として販売している。ようやく軌道に乗って

きた平成 12 年には口蹄疫が発生。輸入わらの検疫が強化され、畜産農家からの国産わらの需要が一気に高まり、販売促進につながった。

稲わらは 3 地区から収集しており、地区ごとに複数品種を収集することで、8 月中旬から 11 月上旬までの長い作業期間による収益性を確保。また、わらを収集するほ場は、10 km 以内に団地化され、効率的に作業が行えるため、1 日当たり最大で約 40ha のわら収集を可能としている。



○6 次産業化による農業ビジネスについて

土地利用型よりも高収益型という考えから、稲わらと組み合わせられる品目を模索。消費者が注目するような魅せる農業をしたいと、平成 17 年からドラゴンフルーツなどの亜熱帯フルーツ栽培を始める。当初は、生果のみの販売であったが、傷果や地域の農産物を原料にした加工品として、平成 19 年にアイスクリーム製造販売部門を立ち上げる。商品ロゴやパッケージは、手に取りたくくなるようなデザインを心がけ、商品開発の専門家と検討。平成 24 年に「梶島氷菓」を商標登録し、ブランドとして確立した。

アイスクリームの製造・販売知識や技術は一から習得した。製造許可を取得して自社で工場建設し、製造機械を導入することにより、数百個の小ロットから受注が可能となり、現在、県内外の他社ブランドの製造も請け負っている。

同社ではこれまで、フルーツ栽培用ハウスを建てる時にスーパー L 資金を利用したのみで、国や県の補助金は使っていない。



③ 唐津市水産業活性化支援センター

●視察テーマ：①さばの完全養殖の取組について

②施設視察

○唐津市の概要

唐津市は、佐賀県の北西に位置し玄界灘に面する。東西約 36km、南北約 30km に及び、総面積は約 487.54 km² で、佐賀県全体の約 20% を占めている。人口は平成 29 年 4 月 1 日現在で 124,431 人、50,283 世帯。果樹・米・野菜・肉用牛などの生産が主である。漁業の魚種別漁獲量では、あじ類、さば類が約 7 割を占める。くるまえびなどの養殖も盛ん。大規模な果樹園が広がり、ハウスみかんが特産品である。

○唐津市水産業活性化支援センターの概要

競争力ある新しい養殖魚種の開発や普及をする「新水産資源創出プロジェクト」の実施のため、高度な基礎研究と技術開発の機能を備えた施設で、現在は唐津市と九州大学との間で共同研究が行われている。

現在は、唐津市からセンター長が 1 人、事務職員が 1 人、九州大学から研究スタッフが 3 人、技術補佐員が 4 人配属され、研究に取り組んでいる。

【施設沿革】

- 平成 19 年：九州大学と唐津市との協力協定締結
- 平成 23 年：唐津市水産業活性化支援事業に関する実施協定締結
- 平成 24 年：共同研究開始、唐津市水産業活性化支援センター管理研究棟完成
- 平成 26 年：唐津市水産業活性化支援センター屋内水槽棟完成

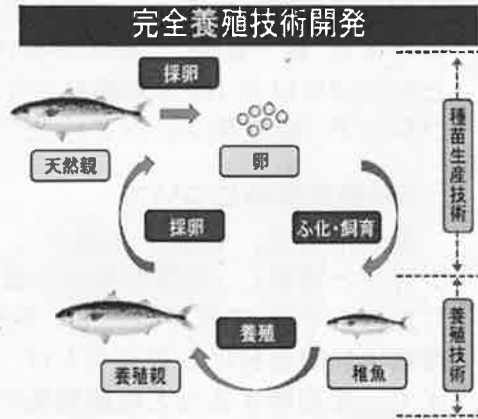
○さばの完全養殖について

いかで有名な佐賀県唐津市呼子は、もともとさばも豊富に獲れた。漁獲量の減少等への対策として「新水産資源創出プロジェクト」の一環でマサバの完全養殖技術の開発を進め、平成 26 年には養殖さばから採取した卵をふ化させ、成魚に育て上げる「完全養

殖」に成功。全国的にその成功は珍しい。

円形の水槽で体長8cmほどにまで育てた後、海面いけすや陸上水槽で1年をかけて20~30cmまで成長させる。水温が常時調節できる液晶画面の設置やえさのやり方などを工夫。また、過程をデータ化して一年中、一定した脂肪分のマサバを作り出す。年間平均の脂質含量は20%以上。稚魚から一貫してえさを管理しているため、寄生虫の心配もほとんどないという。

主に市内の飲食店や宿泊施設に出荷し、今季(平成28年9月~29年6月)は1万匹を見込む。県外への販路拡大を目指し、生きたままのさばをトラックの水槽に入れて関東や関西に運ぶ流通試験を実施している。県民からの公募で決まった「唐津Qサバ」の愛称で、品質の高さを県外にもアピールして観光客誘致にもつなげたい考えを持つ。



〈平成29年度当初予算の状況〉

○唐津市 唐津水産業活性化支援事業費 122,071千円

主な内容：九州大学への研究委託 40,000千円、水産業活性化センター施設運営 32,351千円、マサバ養殖事業 49,720千円 等

○新潟県 陸上養殖研究促進事業 6,935千円

事業内容：飼育技術の開発(マハタ、クエ、漢方用タツノオトシゴ)等

養殖業生産額と漁業・養殖業生産額に占める割合の推移



漁業・養殖業生産額に占める養殖の割合(平成24年)



資料：水産庁

資料：農林水産省「漁業・養殖業生産統計」

注：平成23(2011)年調査は岩手県、宮城県、福島県の一部を除く

④ 嬉野市議会

●視察テーマ：「うれしの茶」の海外販路開拓に向けた取組について

○嬉野市の概要

嬉野市は、佐賀県西部に位置する。人口は平成27年3月31日現在で27,464人、9,840世帯。市内にある嬉野温泉には年間100万人以上の観光客が訪れ、観光業が盛んである。農業では、米、麦類のほかに茶の生産が盛んで、茶は市木に指定されている。市内の嬉野町は、中国から焼き物の文化とともにもたらされた「釜炒り茶」の発祥の地とされている。

○2015年農林業センサス

嬉野市	農業経営対数	作付面積
水稲	834経営体	765ha
茶	363経営体	544ha

○「うれしの茶」について

うれしの茶は、室町時代ごろから生産が始まったとされ、佐賀県南西部の嬉野市から、長崎県東彼杵町にかける地域で生産される。釜炒りにより加熱し、発酵を停止させる「釜炒り茶」で知られるが、他の日本茶と同様に蒸すことで加熱するものが主流である。茶葉は丸く、その形状から玉緑茶(グリ茶)とも呼ばれ、香りも強い。毎年実施されている全国茶品評会では、平成21年から5年連続で日本一を獲得し、全国に認められている。

○平成26年玉緑茶生産量

全国	2,017t	全国に占める割合
佐賀県	456t	22.6%
嬉野市	414t	20.5%

(資料：農林水産統計データ)

平成 14 年に佐賀県又は長崎県において生産された原料茶を 100%使用し仕上げ加工した茶を、統一銘柄「うれしの茶(嬉野茶)」とし、50%以上 100%未満を「うれしの茶ブレンド(嬉野茶ブレンド)」としている。

旬の時期 (①新茶・②二番茶・③三番茶・④秋冬番茶)

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
				①		②	③		④		

○海外販路開拓について

嬉野市では、平成 27 年度から、(独)日本貿易振興機構(ジェトロ)佐賀貿易情報センターと連携し、茶業関係者の輸出への関心醸成からうれしの茶の海外販路開拓まで取り組む。平成 27 年 9 月には、茶商、茶生産者、JAほか茶業関係者 24 名が、うれしの茶輸出検討委員に名乗りを上げ、地域ぐるみの取組へ拡大。平成 28 年度は、米国人バイヤーを招聘するなど販路開拓に向けた具体的な取組を開始し、その年度中に受注を受け、輸出に成功している。また、日本食ブームが顕著なヨーロッパへの販路開拓を目指す企業も出てきている。うれしの茶を高級ブランド茶として認知してもらう施策とブランドツールの作成により、継続的な輸出を目指している。

○ジェトロ「地域団体商標海外展開支援事業」(平成 28 年度:うれしの茶が採択。)

事業内容:特許庁の地域団体商標を取得している団体の海外展開を支援することがねらい。平成 28 年度は 11 組が採択され、専門家の人件費や広告作成費など 1 組当たり 500 万円を上限に補助される。

〈平成 29 年度当初予算の状況〉

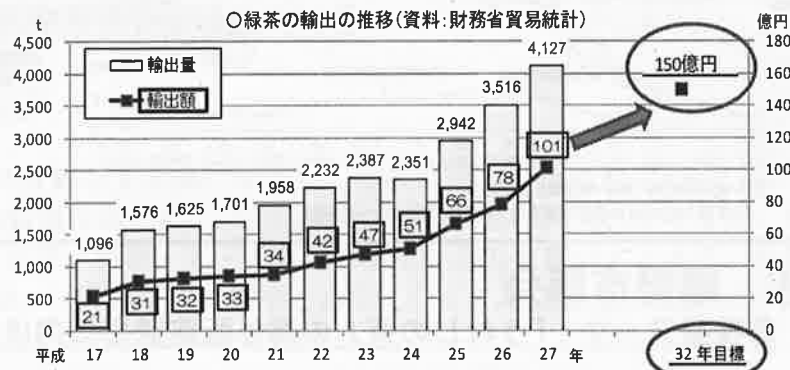
○嬉野市 茶業振興費 6,431 万円

主な内容:さが園芸農業者育成対策事業補助金 2,738 万円、海外販路開拓支援事業委託料 500 万円、うれしの茶産地振興支援事業 400 万円 等

○お茶の輸出の動向

国際連合食糧農業機関 (FAO) によれば、今後、世界の茶の貿易量はさらに増加すると予測されている。緑茶の輸出量は、米国等における日本食ブームの影響等により、平成 17 年から 27 年の 10 年間で 4 倍に増加。輸出先国としては、米国が全体輸出量の約半分を占める。

政府は、今後は米国や香港などの安定市場に加え、ロシアや EU の新興市場を重点国とし、茶器や和菓子等日本食・食文化とセットにした売り込みで、茶の輸出額を平成 32 年 150 億円を目標としている。



⑤ 佐賀県射撃研修センター

●視察テーマ:①鳥獣被害対策における狩猟者等の確保・育成に向けた射撃場の整備について

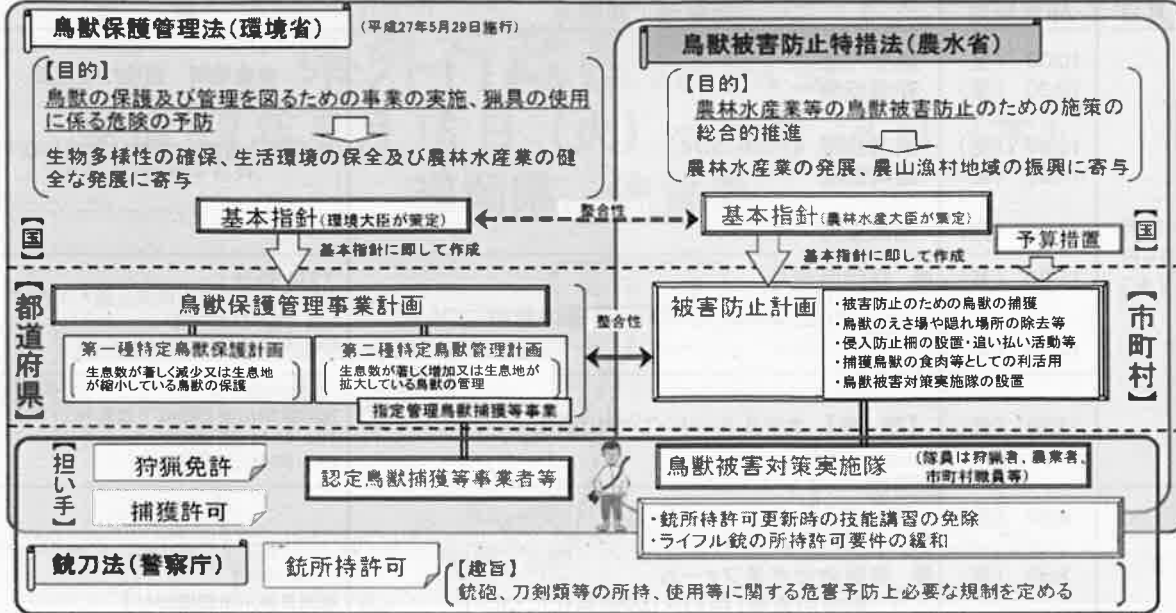
②施設視察

○佐賀県射撃研修センターの概要

平成 6 年 8 月に供用を開始。ライフル銃及び散弾銃の取扱技術の習得及び射撃技術の向上を目的にライフル射撃場とクレー射撃場を併設する総合射撃場として設置された。射撃競技大会の開催等のほか、狩猟者や有害猟銃捕獲従事者に対して、技術・モラルの資質向上及び事故防止の啓発や猟銃免許試験・猟銃免許更新講習会等を実施している。

人員は 4~6 名の交代制勤務。平成 18 年 4 月から指定管理者制度をとっており、指定管理委託料は平成 26 年度で約 397 万円。利用状況は平成 25 年度実績で、散弾銃射撃場が 3,018 人、ライフル射撃場が 405 人となり、利用料収入は、約 1,435 万円。

○鳥獣保護管理法、鳥獣被害防止特措法、銃刀法との関係



○鳥獣被害対策について

近年、佐賀県内の有害鳥獣の駆除数は右肩上がりが増え、被害金額は減少傾向にある。被害額が最も多い、いのししの捕獲頭数(狩猟と有害駆除の合計)は、平成25年が2万2,816頭で、初めて2万頭を超えた平成22年以降、毎年2万頭以上を捕獲している。一方、被害額はピークだった平成14年の4億1,700万円に対し、平成25年は1億1,120万円と4分の1まで改善した。



捕獲が増えた要因の一つは国や県、市、JAなどが出し合い、捕獲者に支払っている報奨金の増額。金額は市町によって違うが、唐津市では親イノシシ1万3千円、子イノシシ6千円、親サル2万8千円、子サル2万1千円などが支払われている。

また、平成18年には鳥獣害対策担当の専門技術員を配置。県内で開かれる鳥獣外対策研修会での出前講座の実施などで、人材育成の核となっている。

捕獲方法は箱わなが最も多く、ほかに網や猟銃、空気銃を使用。実質的には各地域の猟友会が担当している。狩猟免許を持っている人は60歳代、70歳代が中心で、数年後には高齢化で捕獲者が減る可能性が大きいことが課題となっている。

〈平成29年度当初予算の状況〉

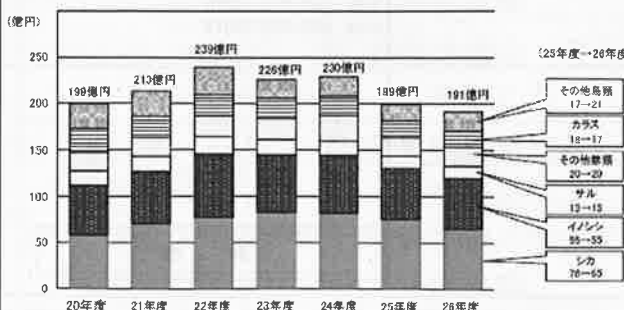
○農林水産省 鳥獣被害防止総合対策交付金 (H29当初予算: 9,650 百万円)

- 【ハード対策】○被害防止施設(侵入防止柵等)、○鳥獣の食肉等への処理加工焼却施設
 ○捕獲技術高度化施設(射撃場)

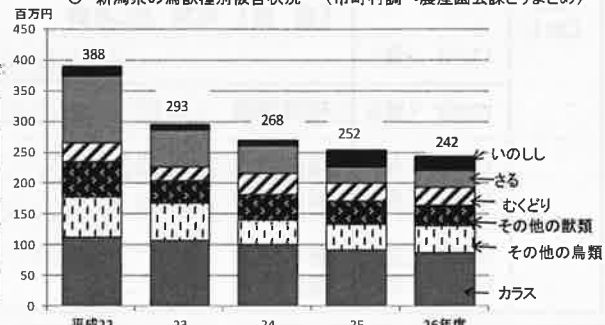
- 【ソフト対策】○鳥獣被害対策実施隊、民間団体等による地域ぐるみの被害防止活動等
 〈事業実施主体〉地域協議会等

〈交付率〉都道府県へは定額(事業実施主体へは事業費の1/2以内等)

○農作物被害額の推移 (全国・農林水産省調べ)



○新潟県の鳥獣種別被害状況 (市町村調べ農産園芸課とりまとめ)



新農業戦略対策特別委員会 県外行政視察日程表

月日	発着時刻	発着地・視察先	備 考	
5月16日 (火)	10:00 (発) 10:30 (着)	議会庁舎 新潟空港	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 参集場所：議会庁舎正面 ※屋食は用意しておりませんので、各自でお願いします。 </div>	
	12:05 (発) 14:00 (着)	新潟空港【FDA 504】 福岡空港		
	14:30 (発)	福岡空港		
	15:00 (着) 16:00 (発)	● 福岡県議会 ・ いちご「あまおう」の輸出促進の取組について	〒812-8574 福岡県福岡市博多区東公園7-7 TEL: 092-643-3823 FAX: 092-643-3825	
	17:25 (着)	【宿 舎】 ホテルルートイン柳川駅前	〒832-0822 福岡県柳川市三橋町下百町78-1 TEL: 0944-75-1551 FAX: 0944-75-1552	
	5月17日 (水)	8:30 (発)	【宿 舎】	
8:50 (着) 10:20 (発)		● 有限会社杏里ファーム ・ 未使用資源(稲わら)の商品化について ・ 6次産業化による農業ビジネスについて ・ 施設視察	〒832-0089 福岡県柳川市田脇524-1 TEL: 0944-73-8120 FAX: 0944-73-8120	
12:10 (着) 13:00 (発)		【昼 食】 和食 いけす料理 玄洋	〒847-0015 佐賀県唐津市北城内1-16 TEL: 0955-70-1500 FAX: 0955-70-1512	
13:30 (着) 14:45 (発)		● 唐津市水産業活性化支援センター ・ さばの完全養殖の取組について ・ 施設視察	〒847-0132 佐賀県唐津市相賀59-2 TEL: 0955-51-7470 FAX: 0955-79-0022	
16:15 (着) 17:15 (発)		● 嬉野市議会 ・ 「うれしの茶」の海外販路開拓に向けた取組について 【説明会場：嬉茶楽館(きんさらんかん)】	〒849-1441 佐賀県嬉野市塩田町大字馬場下甲1769 TEL: 0954-66-9127 FAX: 0954-66-2887 【説明会場：JAさが「嬉茶楽館」】 佐賀県嬉野市嬉野町大字岩屋川内Z2713 TEL/FAX: 0954-43-5266	
17:45 (着)		【宿 舎】 武雄センチュリーホテル	〒843-0022 佐賀県武雄市武雄町武雄4075-13 TEL: 0954-22-2200 FAX: 0954-22-2888	
5月18日 (木)		8:30 (発)	【宿 舎】	
		9:30 (着) 11:00 (発)	● 佐賀県射撃研修センター ・ 鳥獣被害対策における狩猟者等の確保・育成に向けた射撃場の整備について ・ 施設視察	〒840-0202 佐賀県佐賀市大和町大字久池井3669 TEL: 0952-62-8119 FAX: 0952-62-8120
	12:10 (着) 13:10 (発)	【昼 食】 旬菜 あしき野	〒812-0858 福岡県福岡市博多区月隈6-23-7 TEL: 092-576-9010 FAX: 092-576-9015	
	13:30 (着) 14:30 (発) 16:10 (着)	福岡空港 福岡空港【JAL3525】 新潟空港		
	16:40 (発) 17:10 (着)	新潟空港 議会庁舎		
			解 散	